

平成 27 年度第 4 回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成 27 年度第 4 回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) 「これからの図書館サービスのあり方について」答申の構成（案）
- (2) 「これからの図書館サービスのあり方について」目次（案）
- (3) 「これからの図書館サービスのあり方について」具体的な施策一覧
- (4) 答申までのスケジュール
- (5) 北九州市文化振興計画
- (6) その他
(小倉南図書館について)
(八幡図書館について)

3 開催日時

平成 28 年 3 月 30 日（水） 14 時 00 分～15 時 10 分

4 開催場所

北九州市立中央図書館 視聴覚センター 第 2 会議室

5 出席者氏名

(1) 委員（会長他 9 名、欠席委員 6 名）

北九州市立大学図書館長	松尾 太加志
北九州市学校図書館協議会副会長	瀬藤 早苗
北九州市学校図書館協議会会長	江口 恵子
九州国際大学図書館長	島浦 一博
福岡県公立高等学校長協会北九州地区会長	固谷 寛
公募委員	白石 裕子
公募委員	谷之口 博美
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会理事	阿部 芳美
北九州児童文化連盟委員	柴原 佳代子

(2) 事務局（中央図書館長他 7 名）

中央図書館館長	石神 勉
---------	------

中央図書館庶務課長	酒井 国広
中央図書館奉仕課長	埤谷 章子
中央図書館庶務課庶務係長	岩松 栄子
中央図書館庶務課奉仕係長	東 豊
中央図書館視聴覚センター館長	三栗谷 進
教育委員会生涯学習課長	梅下 勝己
教育委員会生涯学習課図書館建設担当係長	古郷 浩一

6 傍聴者

なし

7 会議次第

議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

（１） 「これからの図書館サービスのあり方について」答申の構成（案）

資料「「これからの図書館サービスのあり方について」答申の構成（案）」に基づき、事務局より説明。

（２） 「これからの図書館サービスのあり方について」目次（案）

資料「「これからの図書館サービスのあり方について」目次（案）」に基づき、事務局より説明。

（３） 「これからの図書館サービスのあり方について」具体的な施策一覧

資料「「これからの図書館サービスのあり方について」具体的な施策一覧」に基づき、事務局より説明。

（委員）

新しい要望等を取り入れているので、全体的に良い方向に向かっているのではないかと思います。新しい試みを十分活用できるように、それを支えている職員の育成にも力を入れて、バランスを図っていただければ、もっと良くなると思います。

具体的な施策の一覧の小項目に、新機軸的に新しく「人材の育成を図る」のような項目が出せれば、答申の構成の中にある「３つの基本的な方向性を目指していくためには、これらの業務を担う人材の育成を図る」とも整合性が持てるのではないかと思います。

(会長)

3つの視点については、具体的施策の一覧の中に網羅されていますが、それを担う人材育成というのが、この中ではポップアップしてこない。答申の書き方になると思いますが、この施策の一覧とは別に、人材育成について改めて項目立てて表にするとか、あるいは、具体的施策の一覧の中に、人材育成の具体的な研修内容を入れる等、人材育成についてもまとまった話を別途やらないといけないと感じています。

(事務局)

人材育成については、答申の構成の「基本的な方向性」のところに、人材育成の必要性について、詳しく書き込んでいく必要があるのではないかと考えています。具体的施策の一覧の中に入れ込んでいくということは検討させていただければと思いますが、図書館職員の全体のスキルアップと能力向上があってこそそのレファレンスや子どもの読み聞かせ等の能力向上になると思います。基礎体力を付けるという意味でも、そのバランスは考えたいと思います。

(委員)

ひまわり文庫の充実ですが、市民センターによって差がありすぎて、どこにひまわり文庫が置いてあるのかわからないところもあります。館長と調整して、研修等を行い活用しやすいようにしたり、新刊を置いたりして工夫する必要があると思います。

子ども司書の養成と活用ですが、本校では、以前は応募すると2人くらい入れましたが、昨年は応募しても入れなかったもので、定員の見直し等をしていただければ助かります。

図書館だよりですが、八幡東区の中学校には、八幡東分館から図書館だよりが届いていたが、八幡西区の中学校に替わってから、図書館だよりは届いていないです。中学校にも開館日等の情報を知らせるとよいのでは。

(事務局)

子ども司書については、50名の定員を来年度70名程度に増員をして、窓口実習をする館を、中央の中央図書館と西部の八幡西図書館のほか、市中部の戸畑図書館を入れて、中部の子どもも実習が受けやすいように改善したいと思います。

図書館だよりについては、各小学校・幼稚園・保育所の方に読み聞かせやおはなし会などの情報提供として、非常に大事なツールだと思っていますので、届くようにしています。中学校については事実関係を確認します。

市民センターについては、各々の場所的な環境があるので簡単には進みませんが、地域人材の育成や市民センターでの読み聞かせや司書の派遣等も進めて少しずつ地域での読書の気運が高まっていくような取り組みを進めながら、市民センターの方にも協力をいただき、その上で、ひまわり文庫についての意識が変わっていければと考えています。

(委員)

具体的な施策の一覧の小項目の具体的事業に、事業を共有していく部署や連携する部署を入れるとわかりやすくなると思いますが、可能でしょうか。

(事務局)

子ども読書プランや文化振興計画は、それぞれの担当部署が集まって、市の計画として決定しているので、具体的な担当課を明示することができます。この答申は、図書館協議会が図書館に対して答申するもので、担当部署を書き込むことが難しい面もありますが、施策の内容に、できるだけ市民センターや美術館など、具体的な機関がわかるように努力していきたいと思います。

(委員)

市民センターとの連携について、館長にだけ話をしても、「地域」が「出来ない」と言うことがあります。市民センターは「まちづくり協議会」が運営しているので、そういう接点も、うまくやっていく必要があると思います。

(委員)

図書の分野別配架について、「十進分類法」で本を並べている図書館職員が、書店のような分野別の配架を臨機応変に、あるいは負担をかけずに柔軟に対応できるのでしょうか。

(事務局)

分野別の配架については、常設展示と企画展示があります。常設展示は、常設展示にふさわしい本を選び取る選書の能力が必要となるので、とても勉強しないといけない。企画展示は、市民のニーズを捉える能力や企画力が必要となります。

十進分類法は、図書館側としては調査がしやすい配架となりますが、市民のみなさんが読みやすいようにということで分野別配架をすると、常に本の位置を頭に入っていないと十分な調査ができません。そういう点で、決して簡単に取り入れられるものではありませんが、できるだけ負担をかけずに、また、市民が利用してこそその図書館だと思いますし、調べたいものがなかなか見つからないという声も聞きますし、そこが解消するのにどうすればよいか、先進的に取り組んでいる図書館に話を聞きながら、取り入れられるところは取り入れたいと思います。

(4) 答申までのスケジュール

資料「答申までのスケジュール」に基づき、事務局より説明。

(5) 北九州市文化振興計画

資料「北九州市文化振興計画（改訂版）」に基づき、事務局より説明。

(6) その他

（小倉南図書館について）

（八幡図書館について）

資料「小倉南図書館の整備について」に基づき、事務局より説明。

資料「八幡図書館の開館及び記念事業等の実施について」に基づき、事務局より説明。

(会長)

何かご意見・ご質問はありますか。他になければ、本日の協議会はこれで終了いたします。